

## お茶の水女大家政 長谷川紀子

〔目的〕昨年の報告に引き続き、1982年に実施した調査に基づき、二世帯専用住宅での息子夫婦同居、一般住宅での娘夫婦同居の特徴点の分析をする。

〔方法〕調査票を嫁(娘)用、姑(母)用の2種類作成し、1982年6月～9月に、息子夫婦同居(以下(A)と称す)に関しては、東京都、神奈川県に在住する嫁-姑40組を対象に個別訪問面接法を用い、また、娘夫婦同居(以下(B)と称す)については、東京都3区、大阪市内4区に存在する娘-母30組を対象に留置調査を実施した。そして同居経緯、生活設備の分離度合、家事分担、孫との交流等についての特性を、一部一般住宅での息子夫婦同居と比較しつつ検討した。

〔結果〕①(A)では、親夫婦にも経済力があり、(A)、(B)とも親夫婦が土地を購入している。②同居を開始した理由は、嫁は「当然だから」、「同居をするかわりに親夫婦から援助を受ける」であり、娘は「当然だから」、「親と同居する必要があった」で姑、母は双方とも「安心だから」であった。③(A)で現状同居での満足度が非常に高い④親・子夫婦間での生活設備の専用率は(A)で高く、(B)で低い。さらに、親・子夫婦間で共に夕食をとる回数、日常生活においての嫁-姑、母-娘間での会話頻度は、(A)で少なく、(B)では頻繁である。⑤家事の分担に関しては、(A)では、嫁、姑が全く別々に行っており、(B)では、娘が1人で行うか、協力して行っている。⑥孫のしつけも、(A)の姑はなるべく関与しないという姿勢をとっており、(B)では、娘と母が話し合っ